

資源管理型沖合漁業推進総合調査（三陸沖きちじ等）

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-07-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010216

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



資源管理型沖合漁業推進総合調査（三陸沖きちじ等）

本部 開発調査部

開発調査の背景・目的

沖合底びき網（2そうびき）：太平洋北部海域（三陸沖水域）

太平洋北部水域におけるキチジの資源量は低位で横ばいにあると考えられています（図1）。2003年から水産庁は太平洋北部沖合性カレイ類資源回復計画を定め、その中でキチジを重要魚種と位置づけて保護区を設定し、資源回復に努めています。キチジ資源の回復には小型魚を保護することが有効な手段ですが、キチジは1999～2001年に1歳魚と推定される小型魚の増加がみられ、水産庁と関係業界はその保護の方法を模索していました。沖合底びき網漁業におけるキチジの小型魚を保護するため、標準体長10cm以下のキチジ小型魚のコッドエンドからの脱出率を70%とする選別式コッドエンドの開発の可能性を調査しました。

調査結果

平成16年度から標準体長10cm以下の商品価値の低いキチジ（図2）の脱出率を向上すべく、角目網での調査を行いました。平成17年度は後部63mm角目網で74%、全面63mm角目網で66%、全面79mm角目網で81%と、後部63mm及び全面79mm角目網については目標値である70%を達成しました（図3）。

波及効果

当該選別式コッドエンドを使用することによりキチジ小型魚の保護が図られ、キチジ資源の回復に貢献します。

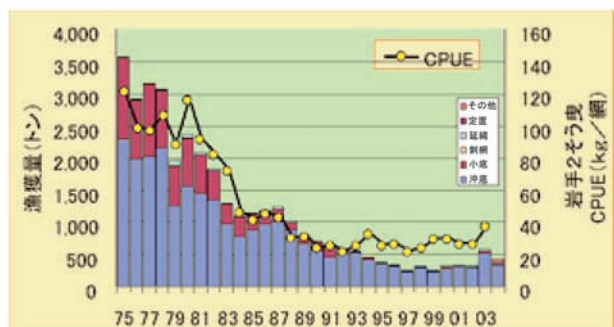


図1 太平洋北部におけるキチジの漁業種類別漁獲量

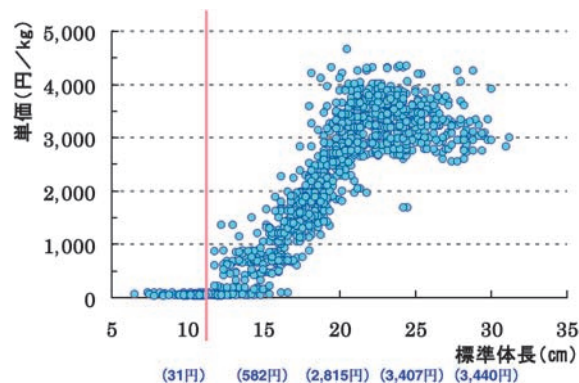


図2 キチジの体長と単価の関係（平成16年度データ）

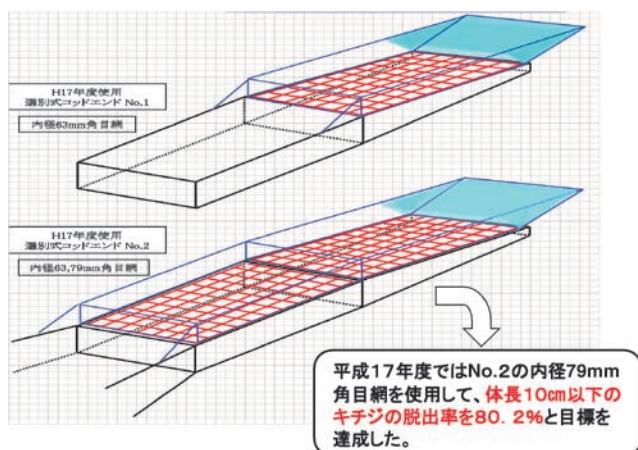


図3 沖合底びき網の概略図

(2) 海洋水産資源の開発及び利用の合理化に関する情報及び資料の収集及び提供

〈概 要〉

- 平成17年度に作成した開発調査報告書，開発ニュース，広報誌全てを電子ファイル化しました。
- 調査船の操業漁獲日報を関係する漁業団体，船主，大学等に配付しました。
- 水産情報展示室所蔵資料について，33,022件のうち28,462件（86.2％）の電子検索を可能としました。
- 平成16年度開発ニュース（速報）9編，平成17年度開発ニュース（速報）3編，平成15年度開発調査報告書分3編，平成16年度開発調

査報告書分9編，合計12編を刊行し，関係機関に配付しました。また，平成16年度調査結果の概要12件をホームページに掲載するとともに，事業現地検討会等において調査結果を報告して成果の普及を図りました。

- 水研センターが出展した各種イベントにおいて開発調査業務の広報活動を行うとともに，開発調査結果については広報誌において公表しました。また，水産情報展示室の通年一般公開を行い，1,029件の利用があったほか，魚類のはく製及び記録映画等の視聴覚素材の貸出し196件，新聞，テレビ局等のマスコミ取材への対応27件を実施しました。